

東京柔道整復専門学校

瀬谷先生と半分ずつの単位です

開講課程		開講学科		コース		昼夜別	
柔道整復専門課程		柔道整復科		柔道整復コース(3年制)		昼間部	
開講年度		履修課程		担当教員			
2025	年度	2年生	第1期	川上智志 瀬谷智美			
講義区分		授業科目名					
基礎分野		総合基礎②				2 単位	30 時間

【科目概要】

- ・高齢者の特性（認知症含む）について学び、高齢者の身体的特性を体感する。
- ・介護保険制度について学び、高齢者を取り巻く環境及び制度について理解する。
- ・福祉用具の使用目的、適応等を学び、正しい使用方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・高齢者の身体的特性（認知症含む）を理解し、高齢者の動きや身体の使い方について具体的なイメージを持つことができる。
- ・介護保険制度について学び、事例に対して適切な対応をすることができる。
- ・福祉用具の使用目的、適応等を学び、適切に使用することができる。

【授業外における学習方法】

【成績評価方法】

授業内試験及び実技試験を総合して成績評価を実施する。

【使用教材】

教科書『柔道整復師と機能訓練指導』及び配布プリント

【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	高齢者の身体的特性①	講義
2	高齢者の身体的特性②	講義
3	高齢者の身体的特性③	講義
4	高齢者の身体的特性④	講義
5	高齢者の身体的特性⑤	講義
6	介護保険制度①	講義
7	介護保険制度②	講義
8	介護保険制度③	講義
9	まとめ	講義
10	高齢者と福祉用具①	講義
11	高齢者と福祉用具②	講義
12	高齢者と福祉用具③	講義
13	高齢者と福祉用具④	講義
14	高齢者と福祉用具⑤	講義
15	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	2年生 第1期、2期	今田 正人	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	解剖学③	2 単位	60 時間

【科目概要】

ヒトは身体の外部的な情報を感覚器を介して受容し、神経系を介して伝達、処理、反応を行っている。
この様な全身の制御機構（神経・感覚器系）の構造と機能を理解するために必要とされる形態学的な分野の基礎的事項を学習する。

【到達目標】

1. 神経系の構造と機能について理解し、各区分の名称やつながりを説明できる。
2. 感覚器の構造と機能について理解し、各部位の名称やつながりを説明できる。

【授業外における学習方法】

予習として授業の前に講義範囲を必ず最低1回は通読する。
復習を各回毎に最低1時間は行い、講義内容の理解に努める。

【成績評価方法】

資格試験に準拠した多肢選択式の定期試験を行う。
試験の点数で評価する（100点満点で評価し、60点以上を合格とする）。
不合格の場合、再追試験を行う。
最終成績は第1期と第2期の成績を平均する。

【使用教材】

教科書：解剖学（第2版、医歯薬出版）

【その他】

授業は講義形式で行うので講義に毎回出席すること。
各項目の基礎知識を学び、資格試験にそなえて自学自修の方法を学ぶ。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	神経系の基礎 1（神経系の区分、神経組織） p 217～220	講義
2	神経系の基礎2（中枢神経系の区分、脳室系、髄膜） p 220～223	講義
3	脳の形態と機能 1（終脳） p 223～225	講義
4	脳の形態と機能 2（終脳、下行性伝導路） p 225～226、p 236～237	講義
5	脳の形態と機能 3（間脳、松果体、下垂体） p 226～227、p 236～237	講義
6	脳の形態と機能 4（中脳、錐体外路） p 227～228、p 236～238	講義
7	脳の形態と機能 5（橋・小脳） p 228～230	講義
8	脳の形態と機能 6（延髄） p 228～229	講義
9	脊髄 1（区分、内部構造） p 230～232	講義
10	脊髄 2（反射路、上行性伝導路） p 223～225	講義
11	脊髄 3（下行性伝導路、血管系） p 236～238、p 135～137、p 145	講義
12	自律神経 1（総論、副交感神経系） p256～259	講義
13	自律神経 2（交感神経系） p256～259	講義
14	体表解剖 p 275～296	講義
15	第1期試験の解説	講義
16	脳神経1（総論、嗅神経、視神経、動眼神経） p239～241	講義
17	脳神経 2（滑車神経、三叉神経、外転神経） p241～242	講義
18	脳神経 3（顔面神経、内耳神経、舌下神経） p 242～243、p 245	講義
19	脳神経 4（舌咽神経、迷走神経、副神経） p243～245	講義
20	感覚器 1（外皮） p261～264	講義
21	感覚器 2（視覚器） p265～270	講義
22	感覚器 3（平衡・聴覚器） p270～273	講義
23	感覚器 4（筋紡錘、腱器官、味覚器、嗅覚器） p264～265、p 273～274	講義
24	脊髄神経 1（総論、頸神経叢） p245～247	講義
25	脊髄神経 2（腕神経叢） p247～250	講義
26	脊髄神経 3（腰神経叢） p251～252	講義
27	脊髄神経 4（仙骨神経叢） p252～256	講義
28	体表解剖 p 275～296	講義
29	映像解剖 p 297～304	講義
30	第 2 期試験の解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講過程		開校学科		コース	昼夜別
柔道整復専門課程		柔道整復科		柔道整復コース(3年制)	昼間部
開校年度		履修課程		担当教員	
2025	年度	2年生	第1期、2期	越川, 小林	
講義区分		授業科目名			
専門分野		生理学②			2 単位 60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】 ・人体の機能を動物機能と植物機能に分けて説明できる。 ・人体の植物機能に関係する臓器を説明できる。 ・臓器を構成する細胞の特徴と機能を説明できる。 ・植物機能による恒常性の維持機構について説明できる。					
【講義概要】 ・講義は，教科書を中心にまとめたレジュメに沿って行う。 ・講義の後半は，国家試験向けの演習問題を配付し，演習を行う。					
【成績評価方法】 ・定期試験で判定する。 ・60点以上（100点満点換算）を合格とする。					
【授業の特徴・形式】 ・講義は，教科書を中心にまとめた書き込み式レジュメに沿って行う。 ・講義の後半には，国家試験問題あるいは類似問題を解き，解説を聞くことによって，重要事項の把握と理解に努める。 ・質問は随時メールでも対面でも受け付けるので，積極的に講義に参加すること。					
【教科書・参考書】 ・生理学（南江堂）改訂第4版 彼末一之					

【 講義の内容・日程 】				
回	実施日		講義内容	備考
1	4/7	月	1 3 栄養と代謝 A 生体に必要な栄養素	
2	4/14	月	B エネルギー代謝－D 食物と栄養	
3	4/21	月	1 4 消化と吸収 A 消化器系の構成とはたらき	
4	4/28	月	B 食物の消化と吸収	
5	5/12	月	C 各栄養素の消化と吸収	
6	5/19	月	1 5 体温とその調節 A 体温－F 発熱とうつ熱	
7	5/26	月	2 筋の生理 A 骨格筋①骨格筋の構造－②骨格筋の収縮と弛緩	
8	6/2	月	A 骨格筋②骨格筋の収縮と弛緩－③骨格筋と張力の関係	
9	6/9	月	A 骨格筋④筋電図－C 平滑筋	
10	6/16	月	3 神経の生理 A 神経信号の伝達①神経系の構成要素－②静止膜電位・活動電位	
11	6/23	月	A 神経信号の伝達③活動電位の伝導－⑤神経伝達物質と受容体	
12	6/30	月	B 神経系の構成－C 脳の高次機能③連合野の統合機能	
13	7/7	月	C 脳の高次機能④睡眠と覚醒－⑥学習と記憶	
14	7/14	月	問題演習	
15			定期試験	
16	7/28	月	試験解説	
17			再試験	
18	8/25	月	D 内臓機能の調節①自律神経とは－③自律神経系の構成	
19	9/1	月	D 内臓機能の調節④自律神経系による調節－⑤反射のレベル	
20	9/8	月	4 運動の生理 A 運動の調節①運動に関係する主な中枢神経－B 運動神経と運動単位①運動ニューロンと筋の接続	
21	9/15	月	B 運動神経と運動単位②力の調節－C 脊髄による反射とその調節①受容器	
22	9/22	月	C 脊髄による反射とその調節②伸張反射とγ系	
23	9/29	月	C 脊髄による反射とその調節③誘発筋電図－D 脳幹による運動調節①姿勢反射	
24	10/6	月	D 脳幹による運動調節②歩行－E 高次運動機能⑤運動関連脳部位間の接続	
25	10/20	月	5 感覚の生理 A 感覚の一般的な特性①感覚の分類－③感覚の順応	
26	10/27	月	B 特殊感覚①視覚	
27	11/10	月	B 特殊感覚②聴覚－③平衡感覚	
28	11/17	月	B 特殊感覚④味覚－⑤嗅覚	
29	11/24	月	C 体性感覚－E 痛覚	
30	12/1	月	問題演習	

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部
開講年度 2025年度	履修課程 2年生 第1期、2期	担当教員 小堀 孝浩	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 運動学		2 単位 60 時間

【科目概要】 授業は運動学の基礎を学び、運動に関わる身体の機能や構造について学習する。また、動画を鑑賞し、筋肉の触察の方法などを学び、活かせるようにする。具体的には、①運動学の基本を学ぶ。②筋や関節などの理解を深め、運動機能を理解すると共に、触察できるようになる。③正常な運動を学ぶことで、異常な運動とその度合いを理解できるようになる。
【到達目標】 これまで学んできた解剖学や生理学等の知識を土台に、身体の運動の仕組みや機能の理解を深める。そして、臨床現場でも応用できる能力を身につけていく。
【授業外における学習方法】 教科書で復習するだけでなく、筋肉や神経の走行を自分や友人の身体でイメージしたり、実際に触ったり、動かすことで、身体で覚えるようにする。それにより、卒業後の臨床現場でも応用できる能力を身につけていく。
【成績評価方法】 ・ 定期試験（中間試験と期末試験）にて評価する。 ・ 中間試験は、100点満点で評価する。 ・ 中間試験が60点未満の者でも、試験後の課題を提出した場合、中間試験の点数を60点にする救済措置をとる。 ・ 期末試験も、100点満点で評価する。 ・ 全体の評価は100点満点（中間試験の点数40％と期末試験の点数60％の合計の点数）で評価し、60点以上で合格とする。
【使用教材】 ・ 運動学（医歯薬出版株式会社）の教科書を使用 ・ 担当教員が毎回授業資料を配布 ・ 筋肉や神経についての解説や触診のオリジナル動画を視聴 【その他】 ・ 授業の進行状況により、筋肉の触診の実技もできる時があれば取り組む。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	オリエンテーション、運動学の目的、運動の表し方 p.1-8	講義
2	身体運動と力学① p.9-22	講義
3	身体運動と力学② p.9-22	講義
4	運動器の構造と機能 p.23-40	講義
5	神経の構造と機能 p.41-50	講義
6	運動感覚① p.51-56	講義
7	運動感覚②、反射と随意運動① p.51-68	講義
8	反射と随意運動② p.57-68	講義
9	四肢と体幹の運動(上肢帯の運動と筋肉) p.69-77	講義
10	四肢と体幹の運動(肩関節の運動と筋肉) p.78-86	講義
11	中間試験、試験解説、実技①	講義
12	四肢と体幹の運動(肘関節と前腕の運動と筋肉) p.87-94	講義
13	四肢と体幹の運動(手関節と手の運動と筋肉①) p.95-113	講義
14	四肢と体幹の運動(手関節と手の運動と筋肉②) p.95-113	講義
15	試験解説、1学期のまとめ、実技②	講義
16	四肢と体幹の運動(股関節の運動と筋肉①) p.114-124	講義
17	四肢と体幹の運動(股関節の運動と筋肉②)、(膝関節の運動と筋肉①) p.114-130	講義
18	四肢と体幹の運動(膝関節の運動と筋肉②)、(足関節と足部の運動と筋肉①) p.125-145	講義
19	四肢と体幹の運動(足関節と足部の運動と筋肉②) p.131-145	講義
20	四肢と体幹の運動(体幹と脊柱の運動と筋肉) p.146-150	講義
21	四肢と体幹の運動(頸椎の運動と筋肉) p.151-160	講義
22	中間試験、試験解説、実技③	講義
23	四肢と体幹の運動(胸椎と胸郭の運動と筋肉) p.161-166	講義
24	四肢と体幹の運動(腰椎、仙椎、骨盤の運動と筋肉) p.167-172	講義
25	四肢と体幹の運動(顔面、頭部の運動と筋肉) p.173-177	講義
26	姿勢① p.177-189	講義
27	歩行① p.190-196	講義
28	歩行② p.197-203	講義
29	歩行③、運動発達 p.204-224	講義
30	試験解説、1学期と2学期のまとめ、運動学習 p.225-230	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	2年生 第1期、2期	国田 朱子	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	病理学概論		2 単位 60 時間

【科目概要】
・病気の理解に必要な用語の定義を理解する。(例:病理学とは?腫瘍とは?)
・病気の理解に必要な用語の分類を理解する。
・細胞レベルで病気を理解する。
【到達目標】
・病理学は“見る”事により病気を理解する学問です。授業ではプリントを使用し教科書の内容をできるだけわかりやすく講義します。
・病気を理解する為には正常の体の理解が前提となりますので解剖学、生理学の知識も重要です。合わせて勉強して理解を深めましょう。
【授業外における学習方法】
・各回で学ぶ用語の定義と分類を自分の言葉で説明できるように学習すると良いと思います。
【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。
【使用教材】
・教科書:病理学概論 医歯薬出版
・参考書:はじめの一步の病理学 羊土社
【その他】

【 講義の内容・日程 】				
回	講義内容			備考
1	病理学とは・疾病の一般	1～6	1. 病理学とは 2. 疾病の一般 A. 疾病の意義と分類	講義
2	疾病の一般・細胞傷害	7～12	2B. 症候の意義と分類 C. 疾病の経過、予後、転帰 3A. 細胞傷害の定義 B. 萎縮	講義
3	細胞傷害	12～17	C. 変性 D. 代謝障害と疾病	講義
4	細胞傷害	17～22	D. 代謝障害と疾病	講義
5	細胞傷害	23～27	E. 壊死 F. 死	講義
6	循環障害	29～33	A. 血液の循環障害 1. 充血 2. うっ血 3. 虚血	講義
7	循環障害	33～38	4. 出血 5. 血栓症	講義
8	循環障害	39～44	6. 塞栓症 7. 梗塞 B. リンパ液の循環障害	講義
9	循環障害	44～49	C. 脱水症 D. 高血圧症 A. 進行性病変の定義	講義
10	進行性病変と細胞・組織の適応	50～56	B. 肥大、過形成、C. 再生 D. 化生 E. 創傷治癒、組織内異物の処理	講義
11	進行性病変と細胞・組織の適応	57～62	F. 移植 A. 炎症の一般	講義
12	炎症	63～65	A. 炎症の一般	講義
13	炎症	66～70	B. 炎症の分類	講義
14	前半のまとめ			講義
15	試験解説			講義
16	免疫異常、アレルギー	71～74	7A. 免疫の仕組み	講義
17	免疫異常、アレルギー	75～80	7B. 免疫不全 7C. 自己免疫疾患	講義
18	免疫異常、アレルギー	81～84	7D. アレルギー	講義
19	腫瘍	85～90	8A. 腫瘍の概念 1. 腫瘍の定義 2. 肉眼的形態 3. 腫瘍細胞	講義
20	腫瘍	91～97	4. 腫瘍の組織構造 5. 腫瘍の発育諸段階 6. 生体への影響 7. 発癌の原因	講義
21	腫瘍	98～103	8. 癌の診断と治療 B. 腫瘍の分類 1. 良性腫瘍	講義
22	腫瘍	104～109	2. 悪性腫瘍	講義
23	腫瘍、先天性異常	110～114	3. 主要な癌 9A. 先天性異常: 総論	講義
24	先天性異常	115～120	B. 奇形の原因	講義
25	先天性異常	121～126	C. 奇形成立の時期 D. 奇形の種類	講義
26	病因	127～132	10A. 病因の一般 B. 内因	講義
27	病因	133～140	C. 外因 1. 栄養障害 2. 物理的外因	講義
28	病因	141～150	3 化学的外因 4. 生物学的外因	講義
29	後半のまとめ			講義
30	試験解説			講義

東京柔道整復専門学校(2025)

開講過程	開講学科	コース	部別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	2年生 1・2期	澤田海彦	
講義区分	授業科目名		
基礎分野・専門分野	一般臨床医学①／②		2/1 単位 60/30 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

- ・患者の訴え・徴候・身体所見から患者の病状を理解できるようになるために、病歴の聴取方法、診察方法を習得し、得られた身体所見の表現法を身につける。
- ・柔道整復師として患者を正しく理解し、治療できるようになるために、各臓器に起こる代表的な疾患の基礎的知識を習得する。

【講義概要】

1. 医療面接ができる。 2. 基本的な診察ができる。 3. 患者の診察所見を医学用語で記載できる。
4. 患者の病的な身体所見の病態を説明できる。
5. 各臓器に起こる代表的な疾患の5- 1. 原因を列挙することができる。5- 2. 病態を述べることができる。
- 5- 3. 徴候を列挙することができる。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- 【使用教科書】『一般臨床医学 改訂第3版』 全国柔道整復学校協会編 (医歯薬出版)
「診察と手技がみえる」 メディクメディア
「病気が見える 1 ～ 8」 メディクメディア

【 講義の内容・日程 】			
回	実施日	講義内容	備考
1	4/9	診察概論 A. 診察の意義、 B.診察の進め方	
2	4/16	B 視診： 1. 意義と方法 2. 体格・体型 3. 体位・姿勢 4. 栄養状態	
3	4/23	B 視診： 5. 精神状態 6.異常運動 7. 歩行	
4	4/30	休日	
	5/7	B 視診：8.皮膚	
5	5/14	B 視診： 9 頭部、顔面 10.頸部	
6	5/21	B 視診： 11.胸部 12.腹部 13.背部、腰部 14.四肢	
7	5/28	C. 打診 D. 聴診	
8	6/4	E. 触診 F. 生命徴候	
9	6/11	G. 感覚検査 H. 反射検査	
10	6/18	I. 代表的な臨床症状 3. 検査法	
11	6/25	I期 期末試験	
12	7/2	A. 呼吸器疾患①	

13	7/9	A. 呼吸器疾患②	
14	7/16	A. 呼吸器疾患③	
	7/23	定期試験	
15	7/30	定期試験解説	
	8/6	夏休み	
	8/13	夏休み	
	8/20	夏休み	
1	8/27	B. 循環器疾患①	
2	9/3	B. 循環器疾患②	
3	9/10	B. 循環器疾患③	
4	9/17	C. 消化器疾患①	
5	9/24	C. 消化器疾患②	
6	10/1	C. 消化器疾患③	
7	10/8	C. 消化器疾患④	
8	10/15	D 代謝疾患①	
9	10/22	D 代謝疾患②	
10	10/29	E 内分泌疾患①	
11	11/5	E 内分泌疾患②	
12	11/12	F 血液・造血器疾患①	
13	11/19	F 血液・造血器疾患②	
14	11/26	F 血液・造血器疾患③	
	12/3	定期試験	
15	12/10	定期試験解説	
	12/17	予備日	
	12/24	追再試験	
	12/31	年末休み	
1+2	1/6	G 腎・尿路疾患①②	
1+2	1/7	G 腎・尿路疾患①②	
3+4	1/13	G 腎・尿路疾患③ H 神経疾患①	
3+4	1/14	G 腎・尿路疾患③ H 神経疾患①	
5+6	1/20	H 神経疾患② ③	
5+6	1/21	H 神経疾患② ③	
7+8	1/27	I 感染症①②	
7+8	1/28	I 感染症①②	
9+10	2/3	J 膠原病・アレルギー K 環境因子による疾患①②	
9+10	2/4	J 膠原病・アレルギー K 環境因子による疾患①②	
	2/11	建国記念日	
11	3/3	Ⅲ期 試験解説	
11	3/4	Ⅲ期 試験解説	

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部
開講年度 2025 年度	履修課程 2年生 第1期、2期	担当教員 佐藤卓弥	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 整形外科学	2 単位	60 時間

【科目概要】

- ・ 整形外科において感染症，外傷や障害（スポーツ含む），腫瘍，変性疾患，代謝疾患，骨系統疾患など運動器疾患は多岐にわたり，運動器系の構造と機能を理解して，疾患についての臨床上必要な基礎的知識を，全身あるいは部位別に習得する。

【到達目標】

- ・ 整形外科が対象とする運動器疾患について，疾患の概要や診断，治療についての臨床上必要な基礎的知識を，全身あるいは部位別に習得する
- ・ 整形外科的な診察・検査法や治療法を理解する。疾患の機序，病態や症状，診断，治療を理解する。

【授業外における学習方法】

- ・ 整形外科学だけでなく，解剖学，生理学，運動学，病理学など関連する資料を，教科書も含めて精読する。

【成績評価方法】

- ・ 定期試験【100％】にて評価する
- ・ 100点満点で評価し，60点以上で合格とする
- ・ 単位取得に満たない(不合格)生徒には，補講，補習，課題提出を実施し，追再試験を実施する

【使用教材】

- ・ 整形外科学（改訂第4版）南江堂
- ・ 資料を配付する

【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	運動器の基礎知識 p.3-14	講義
2	整形外科診察法, 整形外科検査法 p.15-40	講義
3	整形外科的治療法 p.41-54	講義
4	骨・関節損傷総論 p.55-71	講義
5	スポーツ整形外科総論, リハビリテーション総論 p.73-83	講義
6	各論: 感染性疾患 p.85-88	講義
7	各論: 骨および軟部腫瘍 p.89-99	講義
8	各論: 非感染性軟部・骨関節疾患 p.99-114	講義
9	各論: 全身性の骨・軟部疾患 p.114-126	講義
10	各論: 骨端症, 四肢循環障害 p.126-135	講義
11	各論: 神経・筋疾患(神経麻痺と絞扼性神経障害, 腕神経叢損傷・分娩麻痺) p.136-142	講義
12	各論: 神経・筋疾患(全身性神経・筋疾患, 脊髄腫瘍, 脊髄損傷) p.143-148	講義
13	各論(体幹): 頸部 p.149-158	講義
14	各論(体幹): 胸部 p.158-162	講義
15	各論(体幹): 腰部(1) p.162-169	講義
16	各論(体幹): 腰部(2) p.162-169	講義
17	各論: 肩関節・肩甲帯(1) p.170-187	講義
18	各論: 肩関節・肩甲帯(2) p.170-187	講義
19	各論: 上腕・肘関節(1) p.188-202	講義
20	各論: 上腕・肘関節(2) p.188-202	講義
21	各論: 前腕, 手関節 p.202-209	講義
22	各論: 手・手指 p.209-215	講義
23	各論: 骨盤・股関節(1) p.216-229	講義
24	各論: 骨盤・股関節(2) p.216-229	講義
25	各論: 大腿・膝関節(1) p.230-246	講義
26	各論: 大腿・膝関節(2) p.230-246	講義
27	各論: 下腿・足関節(1) p.246-255	講義
28	各論: 下腿・足関節(2) p.246-255	講義
29	各論: 足・足趾 p.255-264	講義
30	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部
開講年度 2025 年度	履修課程 2年生 第3期	担当教員 佐藤卓弥	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 柔道整復術の適応		2 単位 30 時間

【科目概要】

- ・ 一般臨床医学，外科学，整形外科学で学んだ知識を再整理し，柔道整復術の適応を判断できることを目的とする。

【到達目標】

- ・ 一般臨床医学，外科学，整形外科学の知識を整理し，総合的な視点を習得する。
- ・ 一般臨床医学，外科学，整形外科学での課題を横断的に解釈することを習得する。

【授業外における学習方法】

- ・ 科目横断的な内容であるため，整形外科学を中心として教科書や資料を十分に読む。
- ・ 国家試験の過去問などに触れて，科目横断的に問われる医学的知識の関連性を構築する。

【成績評価方法】

- ・ 定期試験【100％】にて評価する
- ・ 100点満点で評価し，60点以上で合格とする
- ・ 単位取得に満たない(不合格)生徒には，補講，補習，課題提出を実施し，追再試験を実施する

【使用教材】

- ・ 医療の中の柔道整復 南江堂
- ・ 問題資料を配付する

【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	内臓疾患の投映を疑う疼痛	講義
2	腰痛を伴う疾患	講義
3	化膿性炎症, 軟部組織の圧迫損傷	講義
4	血流障害を伴う損傷	講義
5	末梢神経損傷を伴う損傷(1)	講義
6	末梢神経損傷を伴う損傷(2)	講義
7	脱臼骨折	講義
8	外出血を伴う損傷	講義
9	病的骨折および脱臼	講義
10	意識障害を伴う損傷(1)	講義
11	意識障害を伴う損傷(2)	講義
12	脊髄症状のある損傷	講義
13	呼吸運動障害を伴う損傷	講義
14	内臓損傷の合併が疑われる損傷	講義
15	高エネルギー外傷	講義
16	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース		昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)		昼間部
開講年度	履修課程	担当教員		
2025年度	2年生 第3期	紺野 直能		
講義区分	授業科目名			
専門基礎分野	柔道②			1 単位 30 時間

【科目概要】	
柔道の基本動作と対人技能の基礎を確実に身につけ、それらを用いた攻防ができるようなレベルに達し、礼法、受身、投の形の理合を理解し、認定実技審査に合格できるようにする。	
【到達目標】 武道は武技、武術から発生した我が国伝統の文化であることから、柔道によって日本文化を知ること。また、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手と攻防することによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通じて、武道の伝統的な考えを理解し、相手を尊重して稽古や試合ができるようにする	
【授業外における学習方法】	
【成績評価方法】 授業意欲、実技試験、（レポート）。授業意欲、態度50％、実技試験50％の合計100％ ※出席回数（各学期にて2回以上欠席は試験の受験資格を認めない。）	
【授業の特徴・形式】 柔道実技（礼法、受身、基本動作、打込、投込、乱取、固技、投技、投の形）	
【使用教材】 柔道（南江堂）	
【その他】 講義は各自の柔道衣を着用して受けること。	
【 内容・日程 】	
回	内容 備考
1	「投の形」の歴史とその意義 実技
2	「投の形」における手技（浮落、背負投、肩車）の理論と実践 実技
3	「投の形」における手技（浮落、背負投、肩車）の理論と実践 実技
4	「投の形」における腰技（浮腰、払腰、釣込腰）の理論と実践 実技
5	「投の形」における腰技（浮腰、払腰、釣込腰）の理論と実践 実技
6	「投の形」における足技（送足払、支釣込足、内股）の理論と実践 実技
7	「投の形」における足技（送足払、支釣込足、内股）の理論と実践 実技
8	「投の形」における（手技・腰技・足技）の理論と実践 実技
9	「投の形」における（手技・腰技・足技）の理論と実践 実技
10	「投の形」における（手技・腰技・足技）の理論と実践 実技
11	「投の形」における（手技・腰技・足技）の理論と実践 実技
12	基本動作、打ち込み、立技、固技の乱取り稽古 実技
13	基本動作、打ち込み、立技、固技の乱取り稽古 実技
14	基本動作、打ち込み、立技、固技の乱取り稽古 実技
15	「投の形」における（手技・腰技・足技）の理論と実践 実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	2年生 第1期	福岡孝俊	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学① 骨折下肢①		1 単位 30 時間

【科目概要】 ・ 解剖学的な構造を理解し、各骨折と結び付けて考える。 ・ 各骨折の発生機序、症状、治療法、予後、鑑別診断について学ぶ。 ・ 教科書記載以外の臨床例の知識も得られるようプリント主体の講義となる。
【到達目標】 ・ 各部位の解剖と機能をイメージすることができる。 ・ 主要な損傷の特徴、発生機序、治療法を述べることができる。
【授業外における学習方法】 ・ 予習については、教科書に記載される既に学習した語句(医学用語)を確認しておく。 ・ 復習については、講義(プリント)で穴埋めした箇所を教科書にチェックする。
【成績評価方法】 ・ 定期試験【100%】にて評価する。 ・ 定期試験【90%】授業態度【10%】の総合判定にて評価する。 ・ 100点満点で評価し、60点以上で合格とする。 ・ 単位取得に満たない(不合格)生徒には、追再試験を実施する。
【使用教材】 ・ 柔道整復学(理論編) ・ 柔道整復学(実技編)
【その他】 ・ 講義形式は穴埋め式プリントを配布し、スクリーンを中心に進めていくが、講義中にチェックすることもある為教科書(理論編・実技編)は持参する。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	骨盤骨骨折(骨盤骨単独骨折)(P245～)	講義
2	骨盤骨骨折(骨盤輪骨折)(P247～)	講義
3	大腿骨骨折(近位端部骨折)(P249～)	講義
4	大腿骨骨折(近位端部骨折)(P249～)	講義
5	大腿骨骨折(骨幹部骨折)(P256～)	講義
6	大腿骨骨折(骨幹部骨折)(P256～)	講義
7	大腿骨骨折(骨幹部骨折)(P256～)	講義
8	大腿骨骨折(骨幹部骨折)(P256～)	講義
9	大腿骨骨折(遠位端部骨折)(P258～)	講義
10	大腿骨骨折(遠位端部骨折)(P258～)	講義
11	膝蓋骨骨折(P264～)	講義
12	膝蓋骨骨折(P264～)	講義
13	1学期前半範囲復習	講義
14	1学期前半範囲復習	講義
15	定期テスト解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	2年生 第2期	福岡 孝俊	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学② 骨折下肢②		1 単位 30 時間

【科目概要】 ・ 解剖学的な構造を理解し、各骨折と結び付けて考える。 ・ 各骨折の発生機序、症状、治療法、予後、鑑別診断について学ぶ。 ・ 教科書記載以外の臨床例の知識も得られるようプリント主体の講義となる。
【到達目標】 ・ 各部位の解剖と機能をイメージすることができる。 ・ 主要な損傷の特徴、発生機序、治療法を述べることができる。
【授業外における学習方法】 ・ 予習については、教科書に記載される既に学習した語句(医学用語)を確認しておく。 ・ 復習については、講義(プリント)で穴埋めした箇所を教科書にチェックする。
【成績評価方法】 ・ 定期試験【100%】にて評価する。 ・ 定期試験【90%】授業態度【10%】の総合判定にて評価する。 ・ 100点満点で評価し、60点以上で合格とする。 ・ 単位取得に満たない(不合格)生徒には、追再試験を実施する。
【使用教材】 ・ 柔道整復学(理論編) ・ 柔道整復学(実技編)
【その他】 ・ 講義形式は穴埋め式プリントを配布し、スクリーンを中心に進めていくが、講義中にチェックすることもある為教科書(理論編・実技編)は持参する。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	下腿骨骨折(近位端部骨折)(P265～)	講義
2	下腿骨骨折(近位端部骨折)(P265～)	講義
3	下腿骨骨折(骨幹部骨折)(P271～)	講義
4	下腿骨骨折(骨幹部骨折)(P271～)	講義
5	下腿骨骨折(遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折)(P278～)	講義
6	下腿骨骨折(遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折)(P278～)	講義
7	足・足趾骨折(足根骨骨折)(P283～)	講義
8	足・足趾骨折(足根骨骨折)(P283～)	講義
9	足・足趾骨折(中足骨骨折)(P283～)	講義
10	足・足趾骨折(中足骨骨折)(P283～)	講義
11	足・足趾骨折(趾骨骨折)(P292～)	講義
12	足・足趾骨折(趾骨骨折)(P292～)	講義
13	1学期前半範囲復習	講義
14	1学期前半範囲復習	講義
15	定期テスト解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部
開講年度 2025 年度	履修課程 2年生 第1期	担当教員 松崎 政弘	
講義区分 専門分野	授業科目名 臨床柔道整復学③ 下肢、体幹脱臼		1 単位 30 時間

【科目概要】

- ・柔道整復学（下肢・体幹脱臼）は臨床現場での急性外傷を理解する上で重要な科目である。
- ・各関節・神経・血管など解剖学的側面も図などを用いて説明する。
- ・各関節の脱臼の分類・症状・整復法・固定法および合併症・禁忌事項を図などを用いて説明する。

【到達目標】

臨床柔道整復学の下肢脱臼および体幹脱臼の講義を行う。脱臼の分類、発生機序、症状、整復法、固定法、後療法、合併症を理解する事を目標とする。 具体的目標を下記に示す。

- ・下肢脱臼における各関節（股関節、膝蓋骨、膝関節、足部）の脱臼について理解し、各関節脱臼の分類、概説、発生機序、症状、整復法、固定法、後療法、合併症を説明できる。
- ・体幹脱臼における各関節（顎関節、頸椎、胸椎、腰椎）の脱臼について理解し、各関節脱臼の分類、概説、発生機序、症状、整復法、固定法、後療法、合併症を説明できる。

【授業外における学習方法】

- ・配布資料を中心に復習し、各参考資料・文献・動画などを用いるのも良いと思います。理解できない際には、必ず質問し問題を解決しに来てください。
- ・予習については、指定教科書の該当関節の解剖および各脱臼の概要を見てきてください。

【成績評価方法】

- ・定期試験（60％）、小テスト（20％）、授業態度（20％）の総合判定を行う
- ・授業態度（20％）は、授業と関係ない私語、電子機器操作、無断の入退室などの不適切な授業態度については減算方式で行う
- ・総合判定は100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
- ・合格点に満たない（60点未満）の生徒は再試験および課題等の提出を求める場合がある。

【使用教材】

教科書：柔道整復学・理論編改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂

参考書：標準整形外科学 第15版 井樋栄二/津村弘監修 医学書院

【その他】

- ・本講義は柔道整復師が臨床現場で最低限度、求められる範囲の内容になっています。柔道整復師が医療従事者として行動できるように基礎知識を身につけてください。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	オリエンテーション・股関節脱臼(p325)	講義
2	股関節脱臼(p325～)	講義
3	股関節脱臼(p328～)	講義
4	第1～3回の復習問題(p325～330)	講義
5	膝解剖・膝蓋骨脱臼(p330～)	講義
6	膝蓋骨脱臼・膝関節脱臼(p332～)	講義
7	足部の解剖・横足根関節(ショパール関節)損傷(p333～)	講義
8	足部の解剖・足根中足関節(リスフラン関節)損傷(p334～)	講義
9	中足趾節関節・趾節間関節脱臼(p335～)	講義
10	第5～9回の復習問題(p330～336)	講義
11	顎関節の解剖・顎関節脱臼(p293～)	講義
12	頸椎の解剖・頸椎脱臼(p296～)	講義
13	胸椎、腰椎の解剖・胸椎の脱臼・腰椎の脱臼(p298～299)	講義
14	第11～13回の復習問題(p293～299)	講義
15	定期試験解説および復習	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	2年生 第1期、2期		
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔整④		2 単位 60 時間

【科目概要】 教科書に記載されている理論と臨床現場においての処置等、理論に沿ってしっかりと技術習得並びに重要項目をしっかりと習得できるように指導する。
【到達目標】 筋、骨、靱帯、関節の構造と機能を理解し、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に考察する。
【授業外における学習方法】
【成績評価方法】 ・定期試験にて評価する。 ・評価の観点、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。 ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。 ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。 ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。 ・期末試験に加え、各期ごとに授業内で中間試験を実施する ・各試験における点数を評価に反映させる比率は【中間試験30%】【期末試験70%】とする ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
【使用教材】 ・柔道整復学 理論編 南江堂
【その他】 ・遅刻、早退は開始、終了の各30分以内までとする。原則1時間以上の授業参加を出席とする ・自己申告のない遅刻、早退は欠席扱いとする ・交通機関の遅延に伴う遅刻、早退は証明書の提出があればその限りでない

回	講義内容	備考
1	ガイダンス	講義
2	橈骨近位端部骨折	講義
3	肘頭骨折	講義
4	橈骨骨幹部骨折	講義
5	ガレアジ骨折（逆モンテギア骨折）	講義
6	前腕骨骨折 実技	講義
7	確認試験	講義
8	尺骨骨幹部骨折	講義
9	モンテギア骨折	講義
10	橈尺骨両骨骨幹部骨折	講義
11	橈骨遠位端部骨折 1	講義
12	橈骨遠位端部骨折 2	講義
13	橈骨遠位端部骨折 実技	講義
14	症例紹介	講義
15	試験解説	講義
16	ガイダンス	講義
17	手根骨骨折 1	講義
18	手根骨骨折 2	講義
19	中手骨骨折 1	講義
20	中手骨骨折 整復・固定実技	講義
21	確認試験	講義
22	試験解説・指の解剖	講義
23	中手骨骨折 2	講義
24	基節骨骨折	講義
25	中節骨骨折	講義
26	末節骨骨折	講義
27	前腕骨骨折 キャスト固定 実技	講義
28	指骨骨折 復習	講義
29	試験解説	講義
30	症例紹介	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	2年生 第1期		
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復術の臨床判定		1 単位 30 時間

【科目概要】 柔道整復師の範疇を越えた外傷を施術することで患者に後遺症が生涯残ってしまうかもしれない。さらには初期処置が誤れば死につながりうる。将来の注意すべき傷病をしっかり覚え、臨床で生かせるように学ぶ。また柔道整復師ができる画像観察として超音波観察機器があるので、各組織がどのように映るのかを体感してほしい。
【到達目標】 柔道整復師が臨床において施術できる傷病かどうかを判断できるようになる。 柔道整復師が評価に用いても良いとされている超音波観察装置を用いて正常な筋、靱帯などの各組織を判別できる。
【授業外における学習方法】 授業前は教科書の該当ページで予習し、授業当日には復習を行うことを勧める。
【成績評価方法】 小テストは以下の計算式で学期評価点に反映する。50点 × 正解率（正解数／全問題数） 学期末評価点は、以下2つの合計点（合わせて最高100点） ①小テスト 50点 ②学期末テスト 60点
【使用教材】 できる限り補足資料を載せたプリントを中心に授業を効率良く進めていく予定である。
【その他】

【 講義の内容・日程 】			
回	講義内容		備考
1	1 柔道整復術の適否を考える 2 損傷に類似した症状を示す疾患	P1-15	講義
2	3 血流障害を伴う損傷 4 末梢神経損傷を伴う損傷	P16-30	講義
3	5 脱臼骨折 6 外出血を伴う損傷	P31-42	講義
4	7 病的骨折および脱臼	P43-51	講義
5	8 意識障害を伴う損傷 9 脊髄症状のある損傷	P52-63	講義
6	10 呼吸運動障害を伴う損傷	P63-72	講義
7	11 内蔵損傷の合併が疑われる損傷 12 高エネルギー外傷 13 医用画像の理解	P73-81、P83-88	講義
8	13 医用画像の理解	P89-99、P121-128	講義
9	超音波観察装置の実技		講義
10	"		講義
11	"		講義
12	"		講義
13	"		講義
14	予備日		講義
15	テスト解説		講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	2年生 第1期	◎菊地 正 ◎吉田 晋 ◎村越 嵩紀 ◎西 健喜 ◎大林 典弘	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技④		1 単位 30 時間

【科目概要】 ・スポーツ選手のサポートに必要な内科学や栄養学、コンディショニング、リコンディショニング、トレーニングのための専門的・発展的な知識を身に付けられるよう講義をする。			
【到達目標】 ・柔道整復師としてスポーツ選手や愛好家に対して適切な対応が選択できることを目標とする。 ・接骨院やスポーツ現場において必要な知識と施術を実践的に学習し習得することを目的とする。 ・自身の健康管理の重要性について理解し、健康状態に影響を及ぼす因子やそのリスク、対応策を説明できる。 ・アスレティックリハビリテーションの目的や内容の概要について説明できる。 ・対象者の状態を評価し、適切なアスレティックリハビリテーションを計画できる。 ・重症度や外傷・内科疾患に応じた救急対応が実践できる。			
【授業外における学習方法】 ・レポート作成、及び課題に関しては30分程度の自己学習が必要である。 ・最新の知見を知識として習得するのには授業内で理解が望ましい。			
【成績評価方法】 ・授業内実施の確認テスト（レポート等含む）90% ・授業態度については、授業とは関係ない私語、電子機器の操作、無断の入退室など、不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価に加える。			
【使用教材】 ・配布プリント ・好きになる栄養学 第4版(講談社)			
【その他】 ・実技習得に必要なプリントをした講義等も含まれる。 ・多様な実務経験を基に、実践的な実技の習得を目標に授業を進めていく。			
【 講義の内容・日程 】			
回	講義内容	備考	日程
1	オリエンテーション(授業の進め方・概要について)	実技	4/8
2	スポーツ内科	実技	4/19
3	スポーツ内科	実技	4/19
4	スポーツ内科	実技	5/10
5	スポーツ内科	実技	5/10
6	スポーツ栄養学	実技	5/17
7	スポーツ栄養学	実技	5/17
8	アスレティックリハビリテーション	実技	6/7
9	アスレティックリハビリテーション	実技	6/7
10	スポーツ栄養学	実技	6/14
11	スポーツ栄養学	実技	6/14
12	スポーツ現場での測定と評価	実技	6/28
13	スポーツ現場での測定と評価	実技	6/28
14	アスレティックリハビリテーション 救急処置	実技	7/12
15	アスレティックリハビリテーション 救急処置	実技	7/12

東京柔道整復専門学校

開講課程		開講学科		コース		昼夜別	
柔道整復専門課程		柔道整復科		柔道整復コース(3年制)		昼間部	
開講年度		履修課程		担当教員			
2025	年度	2年生	第2.3期	紺野 直能			
講義区分		授業科目名					
専門分野		柔道整復実技⑥				2	単位 60 時間

【科目概要】

柔道整復術とは「整復、固定、後療法」である。各外傷に対する非観血療法の処置を実践し、それを体得することが臨床上必須になる。本講義では、各外傷の固定方法を学び、それを実践していく。

【到達目標】

学習した柔道整復術の内容を十分に理解し、実践する事が出来るようにする。

【授業外における学習方法】

【成績評価方法】

出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、100点満点で評価する
出席回数（各学期にて3回以上欠席は試験の受験資格を認めない。）

【使用教材】

柔道整復学 理論編 南江堂
柔道整復学 実技編 南江堂

【その他】

講義は各自の白衣着用とすること。

配布された各裂数の包帯を持参して講義を受けること。

・臨床現場で行ってきた実務経験を基に、実践的に授業で伝えていく。

【 内容・日程 】		
回	内容	備考
1	鎖骨骨折	実技
2	鎖骨骨折	実技
3	上腕骨骨幹部骨折	実技
4	上腕骨骨幹部骨折	実技
5	コーレス骨折	実技
6	コーレス骨折	実技
7	第5中手骨骨折	実技
8	第6中手骨骨折	実技
9	下腿骨骨幹部骨折	実技
10	下腿骨骨幹部骨折	実技
11	肋骨骨折	実技
12	肋骨骨折	実技
13	肩鎖関節上方脱臼	実技
14	肩鎖関節上方脱臼	実技
15	肩関節前方脱臼	実技
16	肩関節前方脱臼	実技
17	肘関節後方脱臼	実技
18	肘関節後方脱臼	実技
19	手第2指PIP関節背側脱臼	実技
20	手第3指PIP関節背側脱臼	実技
21	アキレス腱断裂	実技
22	アキレス腱断裂	実技
23	膝関節内側側副靱帯損傷	実技
24	膝関節内側側副靱帯損傷	実技
25	足関節外側靱帯損傷①	実技
26	足関節外側靱帯損傷①	実技
27	足関節外側靱帯損傷②	実技
28	足関節外側靱帯損傷②	実技
29	足関節外側靱帯損傷③	実技
30	足関節外側靱帯損傷③	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	2年生 第3期	◎菊地 正 ◎吉田 晋 ◎村越 嵩紀 ◎西 健喜 ◎大林 典弘	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技⑤		1 単位 30 時間

【科目概要】 ・スポーツ選手のサポートに必要な内科学や栄養学、コンディショニング、リコンディショニング、トレーニングのための専門的・発展的な知識を身に付けられるよう講義をする。			
【到達目標】 ・柔道整復師としてスポーツ選手や愛好家に対して適切な対応が選択できることを目標とする。 ・接骨院やスポーツ現場において必要な知識と施術を実践的に学習し習得することを目的とする。 ・自身の健康管理の重要性について理解し、健康状態に影響を及ぼす因子やそのリスク、対応策を説明できる。 ・アスレティックリハビリテーションの目的や内容の概要について説明できる。 ・対象者の状態を評価し、適切なアスレティックリハビリテーションを計画できる。 ・重症度や外傷・内科疾患に応じた救急対応が実践できる。 ・スポーツ心理学領域における概論レベルで知識を理解する。			
【授業外における学習方法】 ・レポート作成、及び課題に関しては30分程度の自己学習が必要である。 ・最新の知見を知識として習得するのには授業内で理解が望ましい。 ・多様な実務経験を基に、実践的な実技の習得を目標に授業を進めていく。			
【成績評価方法】 ・授業内実施の確認テスト（レポート等含む）90% ・授業態度については、授業とは関係ない私語、電子機器の操作、無断の入退室など、不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価に加える。			
【使用教材】 ・配布プリント ・好きになる栄養学 第4版(講談社)			
【その他】 ・実技習得に必要なプリントをした講義等も含まれる。			
【 講義の内容・日程 】			
回	講義内容	備考	日程
1	救急処置（BLS、頭部外傷、搬送法）	実技	1/6
2	救急処置（BLS、頭部外傷、搬送法）	実技	1/6
3	コンディショニング(スポーツマッサージ)	実技	1/13
4	コンディショニング(スポーツマッサージ)	実技	1/13
5	コーチング学	実技	1/20
6	コーチング学	実技	1/20
7	コンディショニング(スポーツマッサージ)	実技	1/27
8	コンディショニング(スポーツマッサージ)	実技	1/27
9	アスレティックリハビリテーション	実技	2/3
10	アスレティックリハビリテーション	実技	2/3
11	コンディショニング(スポーツマッサージ)	実技	2/10
12	コンディショニング(スポーツマッサージ)	実技	2/10
13	スポーツ心理学	実技	2/17
14	スポーツ心理学	実技	2/17
15	アスレティックリハビリテーション	実技	2/24
16	アスレティックリハビリテーション	実技	2/24
17	コーチング学	実技	3/3
18	コーチング学	実技	3/3

東京柔道整復専門学校

開講課程		開講学科		コース		昼夜別	
柔道整復専門課程		柔道整復科		柔道整復コース(3年制)		昼間部	
開講年度		履修課程		担当教員			
2025	年度	2年生	第2期	瀬谷 智美、菊地 正			
講義区分		授業科目名					
専門分野		高齢者競技者の外傷予防				1	単位 30 時間

【科目概要】

≪ 高齢者の外傷予防 ≫

高齢者を取り巻く環境・制度、身体的特性を学び、機能訓練指導員としての知見を深める。

≪ 競技者の外傷予防 ≫

運動生理学、外傷の発生要因、メディカルチェック、コンディショニング（ストレッチ、テーピング、筋力トレーニング等）を学び、競技者の外傷予防に対する知識を学ぶ。

【到達目標】

≪ 高齢者の外傷予防 ≫

高齢者の特性を理解し、それを踏まえた運動プログラムの立案ができる。

多職種連携の重要性を理解し、高齢者の自立支援について適切な対応をすることができる。

≪ 競技者の外傷予防 ≫

メディカルチェック各項目の意義を理解し、患者の評価を的確に行うことができる。

コンディショニングの方法を理解し、競技特性に応じた外傷予防を提案することができる。

【授業外における学習方法】

【成績評価方法】

≪ 高齢者の外傷予防 ≫

授業内試験及び定期試験の成績を踏まえて強化をする。

≪ 競技者の外傷予防 ≫

【使用教材】

≪ 高齢者の外傷予防 ≫

教科書「柔道整復師と機能訓練指導」、配布資料

≪ 競技者の外傷予防 ≫

【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	柔道整復師と介護保険、発達と老化の理解、認知症の理解	実技
2	高齢者自立支援の理解	実技
3	機能訓練指導員と機能訓練指導①	実技
4	機能訓練指導員と機能訓練指導②	実技
5	機能訓練指導員と機能訓練指導③	実技
6	機能訓練指導員と機能訓練指導④	実技
7	まとめ	実技
8	1. 運動生理学の概要	実技
9	2. 競技者の外傷予防 概論	実技
10	3. 競技者の外傷予防のための実技①	実技
11	3. 競技者の外傷予防のための実技②	実技
12	4. 種目別の外傷予防とその実際①	実技
13	4. 種目別の外傷予防とその実際②	実技
14	4. 種目別の外傷予防とその実際③	実技
15	まとめ	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部
開講年度	履修課程	担当教員(代表)	
2025年度	2年生 第1・2・3期	◎荒井一彦、吉田晋、紺野直能、井口良平、菊地正	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床実習(2年生)		2 単位 90 時間

【授業の到達目標およびテーマ】
・柔道整復師が医療の担い手としての立場を認識し、実際の接骨院で行われる検査・処置を理解する。
【講義概要】
・A単位；学校附属臨床実習施設以外での学校指定臨床実習施設にて実践的施術を体験をする。
・B単位；スポーツ現場などでの救護活動を通じて柔道整復師としての施術を習得する。
・3年生時に行う学校附属臨床実習施設での最終臨床実習への足掛かりとし、将来につながる技術の研鑽に努める。
【成績評価方法】
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
・学習過程で学生の良い点や進歩の状況等を評価し、まとめる。
【授業の特徴・形式】
・実技形式を基本とする。
【教科書・参考書】

【 講義の内容・日程 】		
回	実施日	講義内容
1	臨床実習	・各臨床実習施設毎にて実施する。
2	方法	・5時間18日を基本とする。
3		・各臨床実習施設の事情を踏まえた時間配分を可能とし、合計90時間となれば可とする。
4	A単位	附属の臨床実習施設以外の臨床実習施設で実施
5	1単位	▶附属の臨床実習施設以外の臨床実習施設の条件
6	60時間	・臨床実習における到達目標が設定されており、これに沿って実習ができること。
7		・施術所は5年以上の開業実績があること。
8		・教員の資格を有する柔道整復師、又は5年以上実務に従事した後に厚生労働省の定める基準に合った「柔道整復師臨床実習指導者講習会」を修了した柔道整復師である
9		臨床実習指導者が配置されていること。
10		・過去1年間の施術日の平均受診者数が20名以上であること。
11		・臨床実習の実施に関し必要な施設及び設備を利用することができること。
12		
13	B単位	スポーツ大会などの救護活動
14	1単位	▶活動の種類
15	30時間	フットサル大会救護
16		バスケット大会救護
17		八丈島老人機能訓練
18		練馬少年野球救護
19		障がい者スポーツ救護
20		練馬区柔道救護
21		練馬区柔道大会救護
22		埼玉県柔道大会救護
23		練馬わんぱく相撲
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		